

「東海道宿村大概帳」(2)

西羽 晃

俗に東海道 53 次と言われ、江戸・京都間が東海道と考えられていますが「東海道宿村大概帳」では、さらに大坂までの京街道の 4 宿（伏見、淀、枚方、守口）も含まれています。即ち幕府が管理している国道としての東海道は江戸から大坂間で、57 の宿場があります。

宿場の人口の多い順では（単位：人）

- ① 伏見 24,227 ② 大津 14,892 ③ 府中（静岡）14,071
④ 熱田 10,342 ⑤ 桑名 8,848 ⑥ 四日市 7,114

この人口数には武士の数は入っていません。

宿場には必ず本陣（特別な身分の人のみ休泊）と脇本陣（特別な身分の他に一般人も休泊できる）がありますが、本陣＋脇本陣数は多い順に（単位：軒）

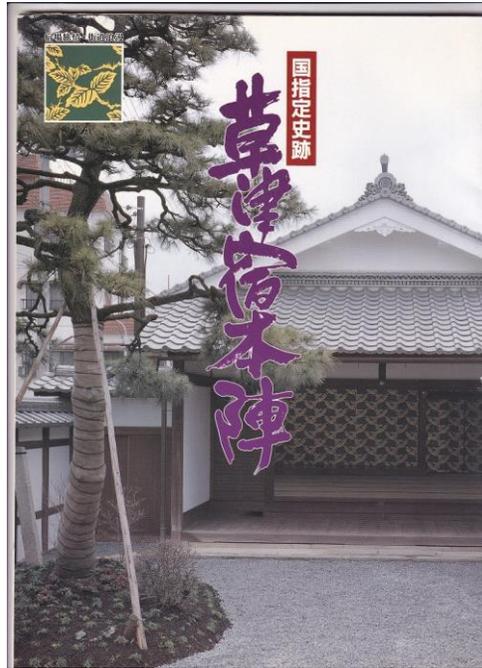
- ① 小田原 8 ② 箱根 7 ③ 浜松、岡崎、桑名、伏見 各 6
小田原、箱根は難路の箱根峠を控えているため、浜松、岡崎は大きな城下町であり、桑名は「七里の渡し」を控えているためです。熱田は 3 軒しかないのは尾張藩が特別な御殿を提供したため本陣等は少ない。

しかし建物の大きさ（総建坪）で見ると（単位：坪）

- ① 伏見 1217 ② 箱根 1204 ③ 浜松 1200 ④ 草津 1179
⑤ 鳴海 997 （桑名は 748）

1 軒の本陣で最大は鳴海の下郷本陣で総建坪は 676 坪です。次いで草津の田中七左衛門本陣は 459 坪です。下郷本陣は桑名の下里家の分家筋にあたります。その広大な建物の一部分しか残っていませんが、田中七左右衛門本陣は原形をほぼ残して現存しており、「草津宿本陣」として国指定史跡となり、一般公開されています。草津には田中九蔵

本陣もありましたが、現存していません。



『草津宿本陣』冊子の表紙

一般の人が休泊する旅籠数の多いのは（単位：軒）、

- ① 熱田 248 軒
- ② 桑名 120
- ③ 岡崎 112
- ④ 四日市 98
- ⑤ 小田原 95

「七里の渡し」の両方で多いのは理解で出来ますが、熱田が断然多いのは、中山道から分岐してきた美濃路が合流するからと考えられます。四日市も多いのは、熱田—四日市の航路があることも関係していると思われます。個々の旅籠の大きさは不明ですが、大、中、小と分類されて記載されています。それによれば桑名は大 8、中 34、小 78。四日市は大 22、中 32、小 44 ですので、軒数よりも実際の収容人数は桑名よりも四日市の方が多いかと思われます。

宿場の軒数の内、旅籠の占める割合が多いのは（単位：％）

- ① 坂下 31.3
- ② 袋井 25.6
- ③ 由比 20.0
- ④ 日坂 19.64
- ⑤ 御油 19.62

比較的、都市化が進んでいない宿場と言えます。

宿場の軒数の内、旅籠の占める割合が少ないのは（単位：％）

- ① 伏見 0.6 ② 府中（静岡） 1.2 ③ 淀 1.91 ④ 大津 1.92
⑤ 掛川 3.1

比較的、都市化が進んでいる宿場と言えます。

ちなみに桑名は 4.7 四日市は 5.4 で、やや少ない方です。